

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム
文書バージョン: 4.2 – 2015-11-12

BI ワークスペースユーザガイド



目次

1	SAP BusinessObjects BI ワークスペースへようこそ.....	4
1.1	このドキュメントについて.....	4
1.2	このドキュメントの対象読者.....	4
1.3	概要.....	4
2	BI ワークスペースの操作.....	6
2.1	概要.....	6
2.2	BI ワークスペースの作成.....	7
2.3	BI ワークスペースのコピーと保存.....	7
2.4	BI ワークスペースの名前の変更.....	8
2.5	BI ワークスペースの編集.....	8
	BI ワークスペースへのタブおよびサブタブの追加.....	9
	BI ワークスペースタブまたはサブタブの名前変更.....	10
	BI ワークスペースタブおよびサブタブのツールバーでの移動.....	10
	BI ワークスペースタブまたはサブタブの複製.....	10
	BI ワークスペースタブおよびサブタブのスクロール.....	11
	BI ワークスペースのタブまたはサブタブの削除.....	11
	BI ワークスペースのプロパティ.....	11
	BI ワークスペースへのセキュリティの追加.....	11
	BI ワークスペースでのレイアウトの変更.....	12
	BI ワークスペースのモジュールライブラリ.....	15
2.6	BI ワークスペースの印刷.....	16
2.7	BI ワークスペースの削除.....	16
3	モジュールの使用.....	18
3.1	概要.....	18
3.2	モジュールの種類.....	18
	BI ラウンチパッドモジュール.....	18
	複合モジュール.....	19
	テキストモジュール.....	19
	Web ページモジュール.....	19
	BI ワークスペースタブのナビゲーション一覧の使用.....	20
	ビューアモジュール.....	20
3.3	モジュールの作成および設定.....	22
	モジュールの使用.....	22

モジュールのデータソース.....	24
Crystal レポートの表示設定.....	25
Web Intelligence ドキュメントの表示設定.....	26
モジュールとドキュメントのリンク.....	27
コンテンツリンク.....	27

1 SAP BusinessObjects BI ワークスペースへようこそ

1.1 このドキュメントについて

このドキュメントでは、SAP BusinessObjects Business Intelligence (BI) ワークスペースの使用に関する情報と手順について説明します。BI ワークスペースは、BI ラウンチパッドアプリケーション内で機能するよう統合された Web アプリケーションです。BI ラウンチパッドは、SAP BusinessObjects BI プラットフォームのオブジェクトを操作するためのインターフェースを提供します。オブジェクト、Crystal レポート、BI ワークスペース、Analysis edition for OLAP、Web Intelligence ドキュメント、Dashboards モデルなどのデータソースが、BI プラットフォームからのプラグインコンポーネントとして BI ラウンチパッドにデプロイされ統合されます。このドキュメントでは、BI ワークスペースおよびモジュールの種類と作成方法、および BI ワークスペースを使用したデータソース間でのコンテンツリンクについて説明します。

1.2 このドキュメントの対象読者

このドキュメントは、Microsoft Windows、Unix または Linux オペレーティングシステム上で BI プラットフォームおよび BI ワークスペースアプリケーションを使用する、ビジネスレポートの作成者、プロフェッショナルレポートの作成者、および BI ワークスペース管理者を対象としています。データを深く分析し、効果的な統計を得るには、レポート生成、データソースの種類、コンテンツリンク方法に対する知識が必要です。

製品の詳細については、BI ワークスペース作成入門ガイドおよび SAP BusinessObjects BI ワークスペースヘルプを参照してください。

1.3 概要

BI ワークスペースでは、モジュールと BI ワークスペースを使用して、事業活動や業績を管理、把握、監視、および追跡できます。会社用 BI ワークスペースを管理することにより、組織は基本となる分析に対する洞察を得て、条件の変化に対応してビジネスルールを変更することができます。BI ワークスペースは、すべてのユーザに対してクリティカルな業務分野を監視するための一貫性のある最新的手段と、タブベースでの移動とページ作成を提供します。プログラミングすることなくアプリケーションを簡単に構築でき、既存のアプリケーションをポイントをクリックするだけでカスタマイズできます。

BI ワークスペースを使用して、次のタスクを実行します。

- Web ベースのアプリケーションメニューと階層を構成します。
- モジュールコンポーネントを選択し、それを必要なページにドロップすることでアプリケーションを構築します。
- 定義済みモジュールテンプレートカタログからテンプレートを選択します。
- これらの再利用可能な構築済みモジュールテンプレートを、さまざまなビジネスシナリオに適用します。

- アプリケーションをカスタマイズします。

BI ワークスペースには、コンテンツのルック & フィールを設定するためのシンプルな Web インタフェースがあります。Crystal レポート、Web Intelligence ドキュメント、ダッシュボードモデルなどのアプリケーションに既存のコンテンツを簡単に統合できます。ユーザは、管理上のコントロールを維持しながら、独自のアプリケーションビューを作成できます。

設定、概要、トレースの詳細については、*SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド*、*SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.1 インストールガイド*、*SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.1 デプロイメント計画ガイド*、および *SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームユーザガイド*を参照してください。

2 BI ワークスペースの操作

2.1 概要

BI ワークスペースでは、Design Studioドキュメント、Web Intelligenceドキュメント、ハイパーリンク、Crystal レポート、非ビジュアルモジュールなどの異なる BI プラットフォームデータソース、または、URL を介した Web ページなどの外部ページを単一のビューに整理および表示することができます。複雑なデータの分析や管理を効果的に行え、組織全体で情報を共有できます。BI ワークスペースを使用することで、組織の目標に対する可視性が向上し、組織の業績と成長を監視できます。BI ワークスペースでは、毎日追跡する必要のあるすべてのビジネス要素を見られる単一のビューと、ページコンポーネントが互いに通信して情報を交換できる Interportlet Communication 機能を提供します。

独自のレポートやカテゴリのポートフォリオを構築したり、1 つ以上の BI ワークスペースを作成し、必要に応じて表示できます。

BI ワークスペースには、次の種類のオブジェクトを含めることができます。

- モジュール
- Web Intelligenceドキュメント、SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAPドキュメント、およびダッシュボードモデル
- Crystal レポート
- Adobe PDFドキュメント
- Microsoft Excel スプレッドシート
- Microsoft Word 文書
- テキストファイル
- リッチテキスト形式 (RTF) ファイル
- Microsoft PowerPoint プレゼンテーション
- ハイパーリンク

[ドキュメント] タブの次のフォルダに BI ワークスペースを保存できます。

- パブリックフォルダ、お気に入り、および個人用カテゴリ
 - [パブリックフォルダ] へ保存された BI ワークスペースには、BI ワークスペースと、表示を共有するために作成されたモジュールが含まれます。これらの BI ワークスペースは、すべてのユーザがアクセスおよび表示できます。
 - [お気に入り] または [個人用カテゴリ] フォルダに保存された BI ワークスペースには、BI ワークスペースと、個人的に表示するために作成されたモジュールが含まれます。ここには、個人でパラメータの拡張および変更ができるモジュールに関する情報が保存されています。これらの BI ワークスペースは、一部のユーザのみがアクセスおよび表示できます。[パブリックフォルダ]、[個人用カテゴリ] のどちらに保存されていても、BI ワークスペースには 1 つ以上のタブとサブタブが含まれます。
たとえば、頻繁にアクセスする Web サイト、Crystal レポート、または Web Intelligenceドキュメントを含む BI ワークスペースを作成できます。この BI ワークスペースは、[個人用カテゴリ] または [お気に入り] フォルダに保存でき、デフォルト表示として設定することができます。また、ナビゲーションパネルにあるリンクをクリックして表示することもできます。BI ワークスペースのデフォルトの場所は、ユーザの [お気に入り] フォルダです。

2.2 BI ワークスペースの作成

BI ワークスペースには、分析されたデータを基にした、有用な情報となるコンテンツを含めることができます。BI ワークスペースは戦略の定義にも役立ちます。BI ワークスペースおよび複合モジュールは、BI ラウンチパッド内でのみ作成および編集することができます。ユーザが権限により編集が可能でも、これには OpenDocument および PIK も含まれます。デフォルトの BI ラウンチパッドのホームページは読み取り専用です。BI ワークスペースでは、その他のカスタマイズされたホームページはすべて編集することができます。カスタマイズされたホームページが編集されると、変更内容は自動的に BI ラウンチパッドで使用可能になります。

BI ワークスペースを作成する

1. 次の情報を収集します。
 - BI ワークスペースまたは BI ワークスペースタブで伝達する情報の一覧。会社用 BI ワークスペースを作成する場合、対象ユーザを分析して必要な情報を決定します。多数の情報がある場合、情報のカテゴリを作成し、カテゴリごとに BI ワークスペースにタブを作成することを検討します。
 - 使用するコンテンツの一覧。モジュールには、Web Intelligence レポート、ダッシュボードモデル、または Crystal レポートを含めることができます。
 - BI ワークスペースタブおよびサブタブにおけるモジュールの整理方法の概要。必ずしも情報が多ければ良いということはありません。雑然とした、情報過多の BI ワークスペースは、非生産的です。
 - 会社用 BI ワークスペースに関するデータセキュリティ上の問題の概要。たとえば、対象ユーザに適切なデータの種類、ユーザに表示するデータの詳細度などです。
2. BI ラウンチパッドでは、次の操作を実行して BI ワークスペースを作成します。
 - **アプリケーション > BI ワークスペース** をクリックします。
3. ワークスペースにモジュールを追加するなど、必要な変更を行います。
4. **[保存]** または **[名前を付けて保存]** をクリックし、新しい BI ワークスペースの名前と保存場所を入力して **[OK]** をクリックします。
[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。
5. BI ワークスペースを保存する場所を選択し、カテゴリを割り当て、**[OK]** をクリックします。

i 注記

BI ワークスペースを保存するフォルダを指定します。BI ワークスペースを **[個人用カテゴリ]** または **[パブリックフォルダ]** に保存します。

6. BI ワークスペースを編集するには、**[BI ワークスペースの編集]** をクリックします。
BI ワークスペースが編集モードで開きます。

2.3 BI ワークスペースのコピーと保存

BI ワークスペースのツールバーを使用して新しい BI ワークスペースを保存できます。既存の BI ワークスペースを開くこともできます。**[名前を付けて保存]** オプションでは、既存の BI ワークスペースがコピーされ、新しい名前で保存されます。

i 注記









BI ワークスペースを保存しても、元の、または既存の BI ワークスペースは変更されません。[名前を付けて保存] オプションでは、新しい BI ワークスペースの名前を入力するダイアログボックスが表示されます。入力した新しい名前が [パブリックフォルダ]、[お気に入り]、または [個人用カテゴリ] フォルダにある場合は、選択された場所にその名前の BI ワークスペースがすでに存在していることを示すメッセージが表示されます。

2.4 BI ワークスペースの名前の変更

1. [ドキュメント] タブで、左側ペインの [パブリックフォルダ] フォルダを参照して、名前を変更する BI ワークスペースを選択します。
2. BI ワークスペースを右クリックして、[プロパティ] を選択します。
BI ワークスペースの [プロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
3. [一般プロパティ] ページの [タイトル] ボックスに BI ワークスペースの新しい名前を入力します。
4. [保存して閉じる] をクリックします。
BI ワークスペースが新しい名前で保存されます。

2.5 BI ワークスペースの編集

1. [パブリックフォルダ] または [個人用カテゴリ] フォルダから BI ワークスペースの名前をダブルクリックするか、[ドキュメント] でカテゴリを参照します。
選択した BI ワークスペースが開きます。
2. [BI ワークスペースの編集] をクリックします。
CMC で BI ワークスペースを編集するには (管理者によって割り当てられた) 適切な編集権限が必要です。パブリックフォルダに保存された BI ワークスペースを編集すると、ユーザすべてに変更内容が表示されます。個人用カテゴリに保存された BI ワークスペースを編集すると、変更内容は変更したユーザにのみ表示されます。
BI ワークスペースの編集ツールバーおよびモジュールライブラリ "ハンドル" が表示されます。
3. ワークスペースのプロパティを設定するには、タブまたはサブタブの右側にある矢印をクリックし、[プロパティ] を選択します。
[プロパティ] ウィンドウが表示されます。
4. レイアウトスタイルを選択し、[OK] をクリックします。
レイアウトスタイルは、タブとサブタブを含めた BI ワークスペース全体に適用されます。ただし、タブまたはサブタブのプロパティウィンドウから選択したレイアウトスタイルは、そのタブまたはサブタブにのみ適用され、BI ワークスペース全体には適用されません。
5. [モジュールライブラリ] でモジュールオブジェクトを選択し、このオブジェクトをレイアウト領域にドラッグして、目的の BI ワークスペースのデザインになるようにサイズ変更して調整します。
モジュールライブラリから BI ワークスペースにドラッグアンドドロップしたモジュールは、その BI ワークスペースの埋め込みオブジェクトとして保存されます。▶ **アプリケーション** ▶ **モジュール** ▶ オプションを使用して作成されたテキストと複合モジュールは、CMS 内に独立した InfoObject として保存されます。


6. BI ワークスペースにタブまたはサブタブを追加します。
7. 次のツールバーオプションを使用して BI ワークスペースを編集します。
 -  (新規): 新しい BI ワークスペースを作成します。
 -  (開く): [パブリックフォルダ] または [お気に入り] カテゴリに保存されている既存の BI ワークスペースを開きます。
 -  (保存): BI ワークスペースに加えた最新の変更を適用します。
 -  (名前を付けて保存): 新しい BI ワークスペースを [パブリックフォルダ] または [お気に入り] カテゴリに保存します。
 -  (モジュールライブラリの表示) モジュールライブラリを開きます。
 -  変更を元に戻す (変更を元に戻す): BI ワークスペースに入力したすべての変更をキャンセルし、以前に保存したバージョンに戻します。
 -  レイアウト: (コンテンツツリンク): モジュール間のコンテンツリンクを有効にします。
 -  編集モードの終了 (編集モードの終了): 編集モードを終了します。変更を保存していない場合、このアクションによって最後の保存以降に行った変更がキャンセルされます

注記

編集モードの終了を選択すると、BI ワークスペースへの変更の保存またはキャンセルを求められます。

2.5.1 BI ワークスペースへのタブおよびサブタブの追加

BI ワークスペースでタブおよびサブタブを作成することで、コンテンツを整理できます。

1. ワークスペースを開きます。
2. [BI ワークスペースの編集] をクリックします。
BI ワークスペースが編集モードで開きます。
3. BI ワークスペースでタブを作成するには、[新しいタブの追加] をクリックします。BI ワークスペースでサブタブを作成するには、[新しいサブタブの追加] をクリックします。
新しいタブの名前のフィールドが有効になります。
4. 名前を入力し、 キーを押します。
名前は、編集モードでタブの名前の隣の矢印をクリックし、[名前の変更] を選択することによっていつでも変更できます。
5. タブまたはサブタブを設定します。
6. [保存] をクリックします。
7. [編集モードの終了] をクリックします。

複数のタブまたはサブタブがある場合のみ、スクロールボタンが表示されます。スクロールボタンを使用して、タブとサブタブを切り替えることができます。タブとサブタブを切り替える前にワークスペースを保存する必要はありません。

2.5.2 BI ワークスペースタブまたはサブタブの名前変更

1. BI ワークスペースから、名前を変更するタブまたはサブタブを選択します。
2. タブまたはサブタブのタイトルの横にある矢印をクリックします。
3. メニューから [名前の変更] を選択します。
名前のフィールドがアクティブになります。
4. 新しい名前を入力し、[Enter](#) キーを押します。
タブまたはサブタブは新しい名前で作成されます。

2.5.3 BI ワークスペースタブおよびサブタブのツールバーでの移動

BI ワークスペースで、新しい場所にタブまたはサブタブをドラッグします。

i 注記

サブタブを別のタブに移動するには、サブタブをそのタブにドラッグします。

タブまたはサブタブが、BI ワークスペースツールバーの新しい位置に配置されます。

2.5.4 BI ワークスペースタブまたはサブタブの複製

BI ワークスペースのタブまたはサブタブを複製して、既存の BI ワークスペースタブと類似した新しい BI ワークスペースタブを作成できます。続けて、コピーした BI ワークスペースタブまたはサブタブの名前を変更したり修正して作成することもできます。たとえば、標準的な会社用 BI ワークスペースの [ようこそ](#) タブを作成して、会社のロゴ、ドキュメント、一般的な指標を掲載することができます。

BI ワークスペースのタブおよびサブタブを複製すると、複製したタブに含まれるすべてのモジュールがコピーされます。複製されたタブに含まれるサブタブの階層もコピーされます。



i 注記

モジュールライブラリの [BI ワークスペース](#) カテゴリの BI ワークスペースオブジェクトを使用して BI ワークスペースタブを再作成するには、この項目を BI ワークスペースのレイアウトにドラッグします。

1. 複製する BI ワークスペースタブまたはサブタブを選択して、タイトルの横にある矢印をクリックし、[複製](#) を選択します。
既存のオブジェクトの右に、オブジェクトの複製が表示されます。末尾に編集番号が付いたタイトルも表示されます。たとえば、"売り上げ" タブの複製を作成した場合、複製のタイトルは "売り上げ (1)" です。
2. (オプション) タブまたはサブタブの名前を変更します。

2.5.5 BI ワークスペースタブおよびサブタブのスクロール

BI ワークスペースで表示可能なタブまたはサブタブの数より多い場合もあります。表示されていないタブを表示するには、スクロールします。

1. BI ワークスペースで、編集する**タブ**または**サブタブ**を選択します。
2. 以下のアクションのいずれかを実行し、タブを表示します。
 -  をクリックして、タブおよびサブタブ内をスクロールします。
 -  をクリックして、メニューからタブ名またはサブタブ名を選択します。

2.5.6 BI ワークスペースのタブまたはサブタブの削除

パブリックフォルダまたは個人用カテゴリに保存された BI ワークスペースで作成されたタブおよびサブタブを削除できます。

1. BI ワークスペースで、削除するタブまたはサブタブを選択します。
2. そのタブで矢印をクリックし、**[削除]**を選択します。
3. **[タブの削除]** ダイアログボックスで、**[はい]** をクリックします。

2.5.7 BI ワークスペースのプロパティ

BI ワークスペースの編集モードで BI ワークスペースタブまたはサブタブのプロパティメニューを表示するには、タブまたはサブタブの矢印をクリックします。次のプロパティを設定できます。

- ヘルプ URL: デフォルトのヘルプ URL をテキストボックスに入力するか貼り付けます。
- スタイルシート: BI ワークスペースのスタイルシートを選択します。BI ラウンチパッドの基本設定でデフォルトオプションを設定します。

BI ワークスペースのレイアウトは、BI ラウンチパッドの基本設定で選択したスタイルシートから継承されます。BI ワークスペースサブタブのレイアウトは、親の BI ワークスペースタブから継承されます。

2.5.8 BI ワークスペースへのセキュリティの追加

パブリックフォルダに保存されている BI ワークスペースは、大規模コミュニティ内や特定のグループ間で、重要な情報を共有します。これらの BI ワークスペースは、情報の共有に使用できます。パブリックな BI ワークスペースでは、業務上の守秘義務により複数のユーザと共有できない追加のセキュリティオプションを設定できます。

BI プラットフォームセントラル管理コンソール (CMC) で、BI ワークスペースのセキュリティルールを設定します。セキュリティは、次の 2 種類の方法で設定できます。

- フォルダレベル: BI ワークスペースは BI ラUNCHパッド の[Public] フォルダに保存されます。管理者は、フォルダのアクセス設定、または各ユーザやユーザグループのアカウント設定を CMC で行うことで、フォルダへのアクセスを制限できます。
 - ユーザ権限: 特定の編集権限を持つユーザのみが BI ワークスペースを編集できます。BI ワークスペースの設定権限の詳細については、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。
1. BI プラットフォーム CMC で、[フォルダ] 領域の BI ワークスペースの一覧を展開し、BI ワークスペースを選択します。
 2. BI ワークスペースを右クリックして、[ユーザセキュリティ] を選択します。
[ユーザセキュリティ] ウィンドウが表示されます。
 3. [主体の追加] をクリックします。
[主体の追加] ウィンドウが開き、利用可能なユーザとグループが表示されます。
 4. [利用可能なユーザ/グループ] 一覧でユーザを選択し、[>] 矢印を使用してユーザを [選択されたユーザ/グループ] 一覧に移動します。
 5. [セキュリティを追加して割り当てる] をクリックします。
[セキュリティの割り当て] ウィンドウが開き、使用できるアクセスレベルが表示されます。
 6. [利用可能なアクセスレベル] 領域でアクセス権を選択し、[>] 矢印をクリックして [割り当てられたアクセスレベル] 一覧に追加します。

権限	説明
フルコントロール	フルアクセスの許可
フルコントロール (所有者)	オブジェクトへのフルアクセス権および所有権を付与します。
スケジュール	オブジェクトに対する表示権限、コンテンツオブジェクトのオンデマンド表示を許可する
表示	オブジェクトに対する表示権限を許可する
オンデマンド表示	オブジェクトに対する表示権限、コンテンツオブジェクトのオンデマンド表示を許可する

7. [適用] をクリックして、[OK] をクリックします。
[ユーザセキュリティ] ウィンドウが開き、選択されたアクセスレベルが [主体の追加] ページに表示されます。
8. [閉じる] をクリックします。

i 注記

ビューアクセスレベルを選択すると、[BI ワークスペースの編集] ボタンは使用できなくなります。

2.5.9 BI ワークスペースでのレイアウトの変更

BI ワークスペースで作成され、個人用カテゴリまたはパブリックフォルダに保存されたタブおよびサブタブのレイアウトを変更できます。

編集する BI ワークスペースで、次の手順でレイアウトスタイルを選択します。

- レイアウト書式を使用せずに BI ワークスペースにオブジェクトを配置するには、[自由形式] レイアウトを選択します。
- 定義済みのレイアウトを使用する場合は、[テンプレート] レイアウトを使用します。行、列、または行と列のレイアウトを選択できます。
- 列構造型の BI ワークスペースを構築する場合は、[列] レイアウトを選択します。

i 注記

モジュールを含む BI ワークスペースのレイアウトを変更すると、新しいレイアウトモードに合わせてモジュールが再配置されます。

2.5.9.1 BI ワークスペースモジュールの表示オプションの設定

1. BI ワークスペースタブまたはサブタブを選択し、[BI ワークスペースの編集] をクリックします。
[コンテンツの編集] ダイアログボックスが表示されます。
2. 編集する BI ワークスペースモジュールのタイトルバーにある [編集] ボタンをクリックします。
3. [レイアウト] タブを開きます。
4. 以下のオプションのいずれかを選択します。

オプション	説明
リンクとして表示 (名前だけを表示)	モジュールが、リンクされているオブジェクトとして表示されます。 i 注記 [ビューア] モジュールを含む BI ワークスペース内のリンクをクリックすると、リンク先が [ビューア] に表示されます。
タブ内のウィンドウ	モジュールがオブジェクトとしてタブに表示されます。
ウィンドウの罫線を表示	モジュールの周りに境界線を追加します

5. [OK] をクリックします。

2.5.9.2 自由形式レイアウトモードでの BI ワークスペースまたは複合モジュールの操作

[自由形式] レイアウトモードでは、レイアウト書式を使用せずに、BI ワークスペースのタブやサブタブ、または複合モジュールにオブジェクトを配置できます。グリッドオプションを使用してオブジェクトを整列することができます。

1. BI ワークスペースまたは複合モジュールの編集モードで、[レイアウト] 一覧で [自由形式] を選択します。
ワークスペースの背景が空白になります。
2. 背景のグリッドを有効にするには、[グリッドサイズ] リストからグリッドサイズを選択します。
3. オブジェクトをレイアウト領域のグリッド行に合わせるには、[グリッドに配置] チェックボックスを選択します。
レイアウトのオブジェクトを移動するか、新しいオブジェクトを追加すると、それらはグリッドラインに配置されます。

2.5.9.3 テンプレートレイアウトモードでの BI ワークスペースの操作

[[テンプレート](#)] レイアウトモードには、BI ワークスペースオブジェクトのレイアウト書式が用意されています。別のモードから [[テンプレート](#)] モードに切り替えると、BI ワークスペースに次のような影響があります。

- [[自由形式](#)] モードから切り替えたときに、BI ワークスペースオブジェクトが特定の順番にない場合、それらは隣接する列に配置されます。テンプレートを選択すると、そのテンプレートの行と列に合わせて BI ワークスペースオブジェクトが移動します。
 - [[列](#)] モードから切り替えてテンプレートを選択すると、テンプレートのセルに合わせて BI ワークスペースオブジェクトが移動します。
 - 選択した定義済みテンプレートにあるプレースホルダより多くのオブジェクトが存在する場合は、BI ワークスペースの 1 番下に追加のモジュールが付加されます。
 - テンプレートに切り替えるか、テンプレート間で切り替えると空のスポットが生じる場合があります。必要に応じて、モジュールを並べ替えてください。
1. BI ワークスペースの編集モードで、[[レイアウト](#)] 一覧で [[テンプレート](#)] を選択します。
 2. [[定義済みのテンプレート](#)] 一覧でテンプレートを選択します。
 3. ブラウザウィンドウのサイズを拡大/縮小するときに、BI ワークスペースの列をウィンドウの幅に合わせて調整するには、[[目盛の幅](#)] を選択します。
[[目盛の幅](#)] は、[[テンプレート](#)] モードでのみ使用できます。
 4. ブラウザウィンドウのサイズを拡大/縮小するときに、BI ワークスペースの行をウィンドウの高さに合わせて調整するには、[[目盛の高さ](#)] を選択します。
[[目盛の高さ](#)] は、[[テンプレート](#)] モードでのみ使用できます。
 5. コンポーネントを分割するには、コンポーネントツールバーにある次のいずれかのオプションをクリックします。

オプション	説明
コンポーネントを左右に分割	コンポーネントが並列コンポーネントに分割されます。
コンポーネントを上下に分割	コンポーネントが上下のコンポーネントに分割されます。

これらのオプションは、[[テンプレート](#)] モードでのみ使用できます。

2.5.9.4 列レイアウトモードでの BI ワークスペースの操作

[[列](#)] レイアウトモードでは、BI ワークスペースオブジェクトの長さや幅を調節することで、列を追加、削除、サイズ変更できます。レイアウト内の各列をドラッグしてサイズを変更できます。これにより、BI ワークスペースが見やすくなり、ユーザビリティが向上します。

1. BI ワークスペースの編集モードで、[[レイアウト](#)] 一覧で [[列](#)] を選択します。
2. 次のコントロールを使用してレイアウトを定義します。

オプション	説明
列の追加	レイアウトに列を追加します。
列の削除	レイアウトから列を削除します。
オブジェクトをクリックして、オブジェクトの辺をドラッグします。	それに応じてレイアウトおよびオブジェクトのサイズを変更します。

2.5.10 BI ワークスペースのモジュールライブラリ

[モジュールライブラリ] ツールバーで、次のオプションを使用できます。

- [テンプレート] には、データを表示するためにカスタマイズできる次のモジュールテンプレートがあります。
 - グループ
 - ナビゲーション一覧
 - テキストモジュール
 - ビューア
 - Web ページモジュール
- [BI ラウンチパッドモジュール] には、BI ラウンチパッドホームページの次のモジュールがあります。
 - マイアラート
 - マイアプリケーション
 - マイ受信ボックス
 - 最近実行したドキュメント
 - 最近表示したドキュメント
 - コラボレーションフィード
- [パブリックモジュール] には、パブリックフォルダに保存されている BI ワークスペースがあります。
- [プライベートモジュール] には、個人用カテゴリまたはユーザの [お気に入り] フォルダで使用するモジュールの一覧があります。
[プライベートモジュール] タブは、[お気に入り] フォルダや [個人用カテゴリ] フォルダに保存された個人用 BI ワークスペースを開いたときのみ表示されます。
- [BI ワークスペース] には、すべての既存のモジュールとユーザ権限で使用する BI ワークスペースの一覧があります。別のワークスペースのタブ、サブタブまたはモジュールを、現在開いているワークスペースに追加することができます。
- [ドキュメントエクスプローラ] では、個人用カテゴリフォルダやパブリックフォルダ、および BI ラウンチパッドのカテゴリを参照できます。[ドキュメントエクスプローラ] ページのルートフォルダには、フォルダとカテゴリが表示されます。

➡ ヒント

モジュールライブラリのツールバーを表示または非表示にするには、BI ワークスペースのツールバーの [モジュールライブラリの表示] をクリックします。BI ワークスペースのレイアウトで、モジュールライブラリを固定するか浮動にするかを設定できます。

i 注記

モジュールライブラリ内の既存のモジュールを、BI ワークスペースツールバーのタブまたはサブタブのレベルにドラッグすることができます。これにより、新しい BI ワークスペースを作成するときに既存モジュールを再利用できます。

2.5.10.1 モジュールライブラリの検索

モジュールライブラリ上部の検索ボックスにキーワードを入力し、アイコンをクリックすることで、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム内の任意のドキュメントを検索できます。結果がモジュールライブラリツールバーの下に表示されます。結果をクリアするには、ツールバーのいずれかのアイコンをクリックします。

検索では、名前がキーワードに一致するすべてのドキュメントがフィルタされます。ただし、メタデータを検索することはできません。

BI プラットフォームでの検索結果の詳細は、Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイドのプラットフォーム検索を参照してください (http://help.sap.com/businessobject/product_guides/sbo41/en/sbo41sp5_bip_admin_en.pdf)。

2.6 BI ワークスペースの印刷

印刷オプションを使用して、BI ワークスペースで動的コンテンツの表示および印刷を行います。特定のドキュメントを印刷のために再ロードする必要がないように、BI ワークスペースビューの現在の状態が表示されます。

➡ ヒント

多数のオブジェクトを含む BI ワークスペースを印刷する場合は、プリンタの設定を [横] に変更します。

1. BI ワークスペースで、ツールバーの [印刷] をクリックします。

[印刷プレビュー] ページが開き、印刷オプションと、印刷される BI ワークスペースタブまたはサブタブのプレビューが表示されます。

2. 次の操作のいずれかを実行します。

- [現在のタブ] を選択して現在表示しているタブを印刷します。これはデフォルトのオプションです。
- [すべてのタブ] を選択して現在表示している BI ワークスペース内のすべてのタブおよびサブタブを印刷します。

3. [印刷] をクリックします。

各 BI ワークスペースタブが 1 ページに印刷されます。

i 注記

BI ワークスペースのコンテンツが 1 ページのサイズに調整されるので、項目が小さくなる場合があります。

印刷プレビューを行うと、BI ワークスペースビューがデフォルトビューにリセットされます。たとえば、あるモジュールを含む BI ワークスペースには、デフォルトで <2007> 年のスライス <California> のデータがロードされます。ユーザがスライスを <Texas> に変更し、スライダを <2005> 年に移動したとします。ユーザが [印刷] をクリックすると、<2005> 年の <Texas> のデータはロードされませんが、<2007> 年の <California> のデータはロードされます。ユーザは印刷ページのスライスを <Texas> に変更し、[印刷] をクリックすることができます。

2.7 BI ワークスペースの削除

BI ワークスペースには、会社目的で重要な情報が含まれていることがあるため、ワークスペースを削除する前に関係者に確認してください。

1. BI ラウンチパッドの [ドキュメント] タブで、BI ワークスペースを含むパブリックフォルダまたは個人用カテゴリに移動します。

-
2. ワークスペースを選択して、 **整理**  を選択します。

3 モジュールの使用

3.1 概要

モジュールは、BI ワークスペースに表示するデータを挿入するドキュメントです。モジュールは、Design Studio のドキュメント、Web Intelligence のドキュメント、Crystal レポート、ダッシュボードモデル、または、Web ページ、テキスト、または分析用のデータを表示するビューアモジュールなどの非ビジュアルライゼーションモジュールを基にして作成することができます。モジュールを作成して BI ワークスペースに追加し、有効かつ効率的な方法でデータを表示できます。

BI ワークスペースで作成したモジュールは、BI ワークスペースに組み込まれたオブジェクトとして保存されます。モジュールに表示される情報は、データソースで保護されています。

テキストや複合モジュールを変更するには、BI ラウンチパッドの [[ドキュメント](#)] タブからモジュールを開き、モジュールツールバーの [[編集](#)] をクリックします。

3.2 モジュールの種類

3.2.1 BI ラウンチパッドモジュール

BI ワークスペースは、モジュールの主要なコンテナです。BI ラウンチパッドは、BI ワークスペースタブフレームワークを使用して異なるページを表示します。デフォルトでは、最初のタブにホームページが表示されます。BI ワークスペースを使用すると、ホームページをカスタマイズし、ユーザやグループに割り当てることができます。BI ワークスペース管理者は、カスタマイズしたホームページを作成し、これらをカスタマイズ強化機能を通して割り当てることができます。

BI ラウンチパッドは、モジュールを使用して、ホームページにユーザに関連性のある情報を表示します。これにより、ユーザは、ドキュメント一覧の [[お気に入り](#)] フォルダ、[[個人用カテゴリ](#)] フォルダ、およびパブリックフォルダに移動しなくても、情報をすばやく見つけることができます。

次の BI ラウンチパッドモジュールを BI ワークスペースに追加できます。

- [マイアラート](#)
- [マイアプリケーション](#)
- [マイ受信ボックス](#)
- [最近実行したドキュメント](#)
- [最近表示したドキュメント](#)
- [コラボレーションフィード](#)

コラボレーション用にワークスペースにモジュールを追加し、BI ラウンチパッドでこのワークスペースをカスタム SAP Jam または SAP StreamWork ホームページとして定義できます。

カスタムホームページの定義の詳細については、*SAP BusinessObjects Business Intelligence 起動パッドユーザガイド*および *SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド*を参照してください。

3.2.2 複合モジュール

複合モジュールは、BI ワークスペース作成ワークフローと統合されたタブまたはサブタブが含まれない簡単な BI ワークスペースです。

複数の BI ワークスペースタブでコンテンツを繰り返し使用する場合は、BI ラウンチパッドで複合モジュールを作成します。複合モジュールを使用して、1 つ以上の任意のモジュールの組み合わせを 1 つのページに作成できます。複合モジュールに含まれるモジュールは個別に編集されます。

たとえば、会社のロゴ、会社名、および守秘義務を含む、標準タイトルページまたはヘッダを BI ワークスペースに設定する場合、情報を含む複合モジュールを作成し、パブリックフォルダに保存します。

ほかの例として、モジュールの特定のレイアウトを再利用するには、複合モジュールを複合モジュールテンプレートに保存します。次に、テンプレートに基づくほかの複合モジュールを作成し、各モジュールインスタンスのデータソースをリセットできます。

BI ワークスペースで複合モジュールから作成されたビューアモジュールのリンクをクリックすると、別のブラウザウィンドウではなく、[ビューア] ページに出力先が表示されます。

3.2.3 テキストモジュール

テキストモジュールを使用して、BI ワークスペースにテキストブロックを追加できます。テキストは、ヘッダ、説明文、HTML、さらには BI ワークスペースビューアで開くことができる OpenModule ハイパーリンクなどに使用できます。BI ラウンチパッドまたは BI ワークスペースでテキストモジュールを作成できます。

テキストモジュールの設定

テキストエディタでテキストモジュール用に HTML コードまたはリンクテキストを作成してから、構文をコピーしてモジュールテキストボックスに貼り付けます。テキストモジュールには次のプロパティを設定できます。

- テキストの種類 (text または html)
- 使用するスタイルシート

3.2.4 Web ページモジュール

BI ワークスペースで Web ページモジュールを使用して、Web ページや画像を表示します。Web ページモジュールは、BI ワークスペースのモジュールライブラリにある [テンプレート] カテゴリで使用できます。画像の URL または相対パスのいずれでも使用できます。

BI ワークスペースでは、Web ページモジュールのすべての URL パラメータが in ポートパラメータとして公開されます。これにより、ユーザは (ワークスペースの同じページにあるリンクされたモジュールから値を送信することで)、URL の元のパラメータを別の値に変更できます。

3.2.5 BI ワークスペースタブのナビゲーション一覧の使用

[ナビゲーション一覧] モジュールをビューアモジュールと一緒に使用すると、アクティブな目次の役割を果たすため、BI ワークスペースタブ上のスペースを最大限に利用します。複数のコンテンツ表示スタイルでは [ナビゲーション一覧] を使用できません。

1. BI ワークスペースの編集モードで、[モジュールライブラリ] を開きます。
2. [テンプレート] カテゴリから、[ナビゲーション一覧] を BI ワークスペースのレイアウト領域にドラッグします。
3. [テンプレート] カテゴリから [ビューア] を BI ワークスペースのレイアウト領域にドラッグし、必要に応じてサイズを変更します。
4. [モジュールライブラリ] の任意のカテゴリから [ナビゲーション一覧] までモジュールをドラッグします。

i 注記

BI ワークスペースを列モードで編集している場合は、`Ctrl` を押したまま、[ナビゲーション一覧] まで複数のオブジェクトをドラッグできます。

ナビゲーション一覧内の項目を選択すると、その項目がビューアモジュールに表示されます。




5. ナビゲーション一覧のツールバーで [編集] をクリックします。
[コンテンツの編集] ダイアログボックスが表示されます。
6. [コンテンツ] タブでは、次の操作を実行できます。
 - (オプション) モジュールを整理するフォルダを作成する。
 - ナビゲーション一覧の項目を整理する。
 - モジュールプロパティを含む、ナビゲーション一覧の項目のプロパティを編集する。
 - ナビゲーション一覧から項目を削除する。
 - ナビゲーション一覧の項目の名前を変更する。
7. [レイアウト] タブでの、ナビゲーション一覧のタイトルと説明を入力し、その一覧の表示オプションとスタイルシートを選択します。
8. [ビューア] タブでは、ナビゲーション一覧の項目のコンテンツを表示するビューアを選択します。
9. [OK] をクリックします。

3.2.6 ビューアモジュール

デフォルトでは、モジュールリンクから呼び出されたオブジェクトが開き、BI ワークスペースの全面に広がります。[ビューア] モジュールでは、`openmodule` 変数を使用するモジュールのリンクを通して、[ナビゲーション一覧] から呼び出されたオブジェクトを表示できます。また、[ビューア] モジュールを使用すると、モジュールをサイズ変更できます。

BI ワークスペースページに複数の [ビューア] モジュールを配置して、同時に複数のレポートを表示することができます。たとえば、ビューアを含む BI ワークスペースタブでは、レポートを含むモジュールを選択すると、リンク先のモジュールがビューアに表示されます。レポートとリンク先のモジュールを並べて表示できます。ほかの例として、Web Intelligence ドキュメントを作成し、ビューアモジュールを使用して、メインドキュメント内のリンクから選択されたドキュメントを表示できます。

[ビューア] モジュールは、[ナビゲーション一覧] モジュールと一緒に使用すると特に役立ちます。ナビゲーションリストモジュールを目次として使用し、ビューアモジュールを表示ポートレットとして使用することにより、スペースを節約します。

編集モード ( **モジュールライブラリ**  **テンプレート** ) で [ビューア] モジュールにアクセスします。BI ワークスペースにビューアを追加するには、[ビューア] を BI ワークスペースレイアウト領域までドラッグして、必要に応じてサイズを変更します。

3.2.6.1 openModule を使用した BI ワークスペース上のビューアモジュールへの情報の送信

openModule 構文を使用すると、BI プラットフォームの Central Management Server の次のドキュメントから、BI ワークスペースの [ビューア] モジュールに情報を送信できます。

- Web Intelligence ドキュメント
- Crystal レポート
- テキストモジュール
- Web ページモジュール




サンプル構文:

```
http://<server host>:<server port>/BOE/PerformanceManagement/
jsp/aa-open-inlist.jsp?target="hiddenFrame"&URL=<encoded URL is displayed as target
URL
in the viewer>
```

例:

```
http://ildabvm0012:8080/BOE/PerformanceManagement/jsp/
aa-open-inlist.jsp?target="hiddenFrame"&url=http%3a%2f%2fildabvm0012%3a8080
%2fBOE%2fOpenDocument%2fopendoc%2fopendocument.jsp%3fsDocName%3dComp%26sPath
%3d%5bTemp%5d
```

サンプルでキーとなる項目は、aa-open-inlist.jsp および target='hiddenframe' です。

1. テキストエディタで、このサンプル構文のコピーと貼り付けを行います。
2. http:// の後にある {<<server host>>:<<server port>>} を Web アプリケーションの保存場所に置き換えます。
たとえば、「http://<BOEhost>:<80>/PerformanceManagement/jsp」と入力します。
3. 変数の後に適切な情報を入力します。
4. BI ワークスペースの <URL> を、表示する URL の名前に置き換えます。
5. 構文をコピーして次の場所に貼り付けます。
 - Web Intelligence ドキュメントまたは Crystal レポートの場合は、クエリのセルに構文をコピーしてから、レポートを実行します。
 - テキストモジュールの場合は、編集モードで [テキストモジュール] ボックスに構文を貼り付け、[html] を選択して、モジュールをパブリックフォルダに保存します。
 - Web ページモジュールの場合は、編集モードで [コンテンツ] タブの [Web ページ URL] ボックスに構文を貼り付け、[OK] をクリックします。[レイアウト] タブで [表示方法] の下にある [リンクとして表示 (名前だけを表示)] を選択します。
6. BI ラウンチパッドで、  **アプリケーション**  **BI ワークスペース**  を選択します。
7. タイトルを入力し、パブリックフォルダを選択して [OK] をクリックし、BI ワークスペースを保存します。

8. **ドキュメント** をクリックして、**パブリックフォルダ**の BI ワークスペースに移動します。
 9. BI ワークスペースをダブルクリックします。
 10. 開いている BI ワークスペースで、**[BI ワークスペースの編集]** をクリックします。
 11. モジュールライブラリで **[ドキュメントエクスプローラ]** タブをクリックし、レポートを探して BI ワークスペースレイアウトまでドラッグします。
 12. モジュールライブラリで **[テンプレート]** タブをクリックし、ビューアモジュールを BI ワークスペースレイアウトまでドラッグします。
 13. **[保存]** をクリックしてから、**[編集モードの終了]** をクリックします。
- レポート内でリンクされている項目をクリックすると、ビューアにリンク先が表示されます。

3.3 モジュールの作成および設定

3.3.1 モジュールの使用

モジュールを変更して、分析および表示する情報の種類を表示できます。BI ワークスペースページに組み込まれたモジュールで次の操作を実行できます。

- モジュールを BI ワークスペースに追加する
- 既存のモジュールに基づいたモジュールを作成する
- BI ラウンチパッドフォルダにモジュールを保存する
- BI ラウンチパッドフォルダからモジュールを削除する
- モジュールをドキュメントまたは他のモジュールにリンクする

3.3.1.1 モジュールの作成

モジュールを作成して、特定のデータのパフォーマンスレベルと傾向変動を表示することができます。データは、Web Intelligence ドキュメント、Crystal レポート、またはダッシュボードモデルの単一の個別クエリから取得できます。モジュールは、次の方法で作成します。

- BI ラウンチパッド経由: ワークスペースとは別にモジュールとその内容を表示、編集および保存する
- BI ワークスペース内: モジュールをそのワークスペースの埋め込みオブジェクトとして保存する

3.3.1.1.1 テキストまたは複合モジュールの作成

1. BI ラウンチパッドのホームページで、**アプリケーション > モジュール** または **マイアプリケーション > モジュール** をクリックします。
- [新規モジュール]** ウィンドウが表示されます。

2. モジュールの種類として [テキスト] または [複合モジュール] を選択します。

テキストモジュールを選択すると、テキストを入力するためのダイアログボックスが表示されます。複合モジュールを選択すると、レイアウトツールバー、およびモジュールライブラリへのリンクが表示されます。

3. テキストを入力するかモジュールを追加してモジュールを作成して、[OK] をクリックします。
4. [名前を付けて保存] をクリックし、モジュールの名前を変更してターゲットロケーションに保存します。

3.3.1.1.2 テキストまたは複合モジュールの編集

BI ラUNCHパッドの [ドキュメント] タブの [お気に入り]、[パブリックフォルダ]、または [個人用カテゴリ] フォルダにある **テキスト** または **複合** モジュールを編集できます。

i 注記

BI プラットフォームの Central Management Server に保存されているモジュールを編集すると、BI ワークスペースに埋め込まれたそのモジュールのすべてのインスタンスが編集されます。

3.3.1.1.3 テキストまたは複合モジュールの保存

テキストおよび複合モジュールは、BI ラUNCHパッドの [お気に入り]、[パブリックフォルダ]、または [個人用カテゴリ] に保存します。

1. BI ラUNCHパッドの [ドキュメント] タブで、モジュールを開いたまま [名前を付けて保存] をクリックします。

モジュールの保存 ダイアログボックスが表示されます。

2. [ファイル名] ボックスにモジュールの名前を入力します。
[型として保存] ボックスは [モジュール] に自動的に設定されています。
3. モジュールを保存するフォルダに移動します。

i 注記

左側の枠で [フォルダ] をクリックします。[パブリックフォルダ] フォルダが表示されます。

4. [パブリックフォルダ] を展開して、[パブリックフォルダ] 一覧のフォルダを選択します。
5. [保存] をクリックします。

モジュールは、BI ラUNCHパッド内の選択したフォルダに保存されます。

3.3.1.1.4 テキストまたは複合モジュールの削除

テキスト および **複合** モジュールは、BI ラUNCHパッドの [パブリックフォルダ] および [個人用カテゴリ] から削除できます。

i 注記

BI ワークスペースで参照されているモジュールを削除すると、ドキュメントがシステム内に存在しないことを示すエラーメッセージが BI ワークスペースに表示されます。

1. BI ラウンチパッドの [\[ドキュメント\]](#) タブで、テキストまたは複合モジュールを含むフォルダに移動します。
2. モジュールを右クリックして、[整理](#) [削除](#) を選択します。

3.3.1.2 モジュールライブラリからのモジュールの追加

BI ワークスペースは複数のタブで構成されており、各タブにはビジネス情報を提供するモジュールが含まれています。BI ワークスペースモジュールは、BI プラットフォームの Central Management Server (CMS) に保存することも、ほかの BI ワークスペースに埋め込むこともできます。

1. 次の操作のいずれかを実行します。
 - BI ワークスペースを開く。
 - 新しい BI ワークスペースを作成する。
 - 既存の BI ワークスペースまたは新しい BI ワークスペースでタブまたはサブタブを作成する。
2. [\[BI ワークスペースの編集\]](#) をクリックします。
3. モジュールライブラリで、追加するモジュールを選択して次の操作のいずれかを実行します。
 - CMS からモジュールを挿入するには、ドキュメントエクスプローラまたは、[\[パブリックモジュール\]](#) か [\[プライベートモジュール\]](#) のカテゴリでモジュールを選択し、ワークスペースにドラッグします。
 - 新しいモジュールを挿入し、BI ワークスペースでカスタマイズするには、[\[テンプレート\]](#) カテゴリからワークスペースにモジュールをドラッグします。

i 注記

カテゴリから選択され、BI ワークスペース内で設定されたモジュールは、埋め込みオブジェクトとして BI ワークスペースに保存されます。これらのモジュールは、CMS では独立した InfoObject ではありません。埋め込みオブジェクトを開くと必ず最新の情報に更新されています。

4. 必要に応じて、モジュールを編集、サイズ変更、および移動して保存します。
5. [保存](#) [編集モードの終了](#) をクリックします。

3.3.2 モジュールのデータソース

BI ラウンチパッドを使用して、データを検索し、データを表示できるモジュールの種類を選択します。BI ラウンチパッドのデータは次のソースから取得できます。

- Microsoft Excel シートからインポートされたデータを使ったダッシュボードモデル
- Excel シートからインポートされたデータを使用して BI ラウンチパッドで作成された Web Intelligence レポート
- SAP Crystal Reports を使用して生成された Crystal レポート

- テキストまたは HTML を含むテキストモジュール
- URL を含む Web ページモジュール

3.3.3 Crystal レポートの表示設定

BI ワークスペースで Crystal レポートの表示設定を設定するには、モジュールツールバーの **[編集]** をクリックします。**[コンテンツの編集]** ダイアログボックスの **[コンテンツ]** タブで次のオプションを設定できます。

表 1:

カテゴリ	オプション	説明
表示するドキュメント	ドキュメント一覧	レポートを見つけるために参照するフォルダツリーを表示します。
	ビューア	ビューアでレポートコンテンツを表示します。
このドキュメントの取得	ソースフォルダからのみ	表示されたドキュメントのデータソースを検索する場所です。
	受信ボックスを先に確認して、コピーがない場合はソースフォルダから取得する	
	受信ボックスからのみ	
表示モード	パートビュー	デフォルトのビューアでレポートの最初の部分のみを表示します。 このオプションは、Crystal Reports で設定および定義されたレポートパートを持つレポートに適用されます。詳細は、SAP Crystal Reports 2011 ユーザガイドのレポートパートビューアに関する情報を参照してください。
	ページビュー	レポート全体をデフォルトのビューアで表示します。
ズームレベル	%	ズーム率 (25%、50%、または 100%) を設定します。 詳細は、SAP Crystal Reports 2011 ユーザガイドのマップのズームインとズームアウトに関する情報を参照してください。
	カスタム	カスタムのズーム率を設定します。
レポートコンテンツ	オンデマンド	レポートを開くたびにレポートデータを最新表示します。
	最新のインスタンス	BI プラットフォームの最新のインスタンスからレポートデータを表示します。
	ユーザ別の最新インスタンス	[ユーザ名] ボックスで設定したユーザで、BI プラットフォームの最新インスタンスのレポートデータを表示します。
表示するレポートパート	デフォルトのレポートパート	レポートパートビューアで指定したレポートパートを表示します。

カテゴリ	オプション	説明
	選択されたレポートパーツ	<p>ユーザが選択するレポートパーツを表示します。レポートに対して、[レポートオプション] ダイアログボックスにある次のオプションを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オブジェクト名]: 出力先オブジェクトとして使用するレポートオブジェクトの名前です。 • [データコンテキスト]: 出力先オブジェクトとして使用するデータコンテキストです。

レポートパーツおよび [レポートパーツビューア] に関する情報は、Crystal Reports のドキュメンテーションを参照してください。

3.3.4 Web Intelligence ドキュメントの表示設定

BI ワークスペースでの Web Intelligence ドキュメントの表示方法を決定するには、ドキュメントを BI ワークスペースにドラッグして、次のオプションを設定します。

- Web Intelligence ドキュメントの一部を選択するには、その部分を右クリックし、[このレポートパーツを選択] を選択します。ユーザが選択した部分のみが表示されます。[編集] をクリックして、ドキュメントを編集します。
- Web Intelligence ドキュメントの一部を選択解除するには、その部分を右クリックし、[このレポートパーツの選択解除] を選択します。ドキュメント全体が表示されます。

BI ワークスペースで Web Intelligence ドキュメントの表示設定を設定するには、モジュールツールバーの [編集] をクリックします。[コンテンツの編集] ダイアログボックスの [コンテンツ] タブで次のオプションを設定できます。

表 2:

カテゴリ	オプション	説明
表示するドキュメント	ドキュメント一覧	ドキュメントを見つけるために参照するフォルダツリーを表示します。
	ビューア	ビューアでドキュメントコンテンツを表示します。
このドキュメントの取得	ソースフォルダからのみ	表示されたドキュメントのデータソースを検索する場所です。
	受信ボックスを先に確認して、コピーがない場合はソースフォルダから取得する	
	受信ボックスからのみ	
レポートコンテンツ	オンデマンド	レポートを開くたびにドキュメントデータを最新表示します。
	最新のインスタンス	BI プラットフォームの最新のインスタンスからドキュメントデータを表示します。

カテゴリ	オプション	説明
	ユーザ別の最新インスタンス	[ユーザ名] ボックスで設定したユーザで、BI プラットフォームの最新インスタンスのドキュメントデータを表示します。
表示モード	フルレポート	ツールバーでドキュメントを表示します。ツールバーオプションの詳細は、Web Intelligence のドキュメンテーションを参照してください。
	コンパクトモード	ユーザの権限により決定されたオプションおよびツールバーを使用してドキュメントを表示します。これにより、ワークスペース内のスペースを節約できます。
	選択されたレポートパーツ	選択されたドキュメントの部分を表示します。パーツ ID はテキストボックスに表示されます。別のアプリケーションの ID を使用することができます。

3.3.5 モジュールとドキュメントのリンク

モジュールにリンクを追加し、モジュールやドキュメント間で情報にアクセスしたり、情報を共有したりできます。

Dashboards モデル、Web Intelligence ドキュメント、Web ページモジュール、および Crystal レポートを使用するモジュールのリンク

モジュールをリンクし、そのリンクにプロンプトパラメータを含めることができます。プロンプトパラメータを追加すると、リンク先のモジュールやドキュメントに表示されるデータは、最初のモジュールに表示される値に応じて動的に生成されます。単一のモジュールとドキュメントまたは複数のモジュールとドキュメントをリンクすることができます。

3.3.6 コンテンツリンク

コンテンツリンクは、Interportlet Communication フレームワークを介した複数のコンポーネントの接続です。BI ワークスペースコンポーネントではこのフレームワークを使用して、ドキュメントとモジュール間でデータを転送します。ダッシュボードモジュール、Web Intelligence ドキュメント、および Web ページモジュールのみが、コンテンツリンクのソースモジュールとして使用できます。

ソースモジュールにデータを表示して、BI ワークスペースの次のターゲットモジュールのデータをリンクできます。

- ソースモジュールおよびターゲットモジュールとしてのダッシュボードモデル
ターゲットモジュールとして定義されたダッシュボードモデルでは、ソースモジュールから情報を受信し、そのダッシュボードモジュールに定義されている変数への入力として利用します。
- ターゲットモジュールとしての Crystal レポート

- ソースモジュールおよびターゲットモジュールとしての Web Intelligence ドキュメント
ダッシュボードモデルをソースモジュールとして定義する場合、動的値はコンテンツリンクフレームワークから、Crystal レポートおよび Web Intelligence ドキュメントのプロンプトに渡されます。このプロンプトは BI ワークスペースのタブまたはサブタブでターゲットモジュールとして使用されます。
- ソースモジュールまたはターゲットモジュールとしての Web ページモジュール
Web ページモジュールは、Web ページまたは画像と別のドキュメントまたはモジュール間でイベントを転送するために、ソースまたはターゲットとして別のモジュールにリンクされます。

i 注記

コンテンツリンクは Design Studio 文書ではサポートされていません。

コンテンツリンクを使用することにより、詳細なレベルでダイナミックモジュールリンクを使用することができ、送信される情報をより詳細に管理できます。詳細リンクを定義するには、BI ワークスペースのコンテンツリンクレイアウトでソースモジュールおよびターゲットモジュールに表示される範囲またはパラメータの一覧を選択します。

i 注記

古い I/O ポートインジケータを介して、ターゲットモジュールとソースモジュール間で古いコンテンツをリンクできます。詳細リンクの場合、BI ワークスペースは、ソースレポートとターゲットレポート間で送信されたデータを解釈する必要はありません。このオプションは、ポータルデータ接続または FS コマンド接続を使用する旧バージョンのリリースで、Interportlet Communication に対応した BI ワークスペースを設計する場合に便利です。

表示されたソース範囲ごとに、対応するターゲット範囲、またはデータを送信して表示する範囲を選択できます。ランタイムにソースモジュールでトリガされた所定の範囲に対し、BI ワークスペースは表示する範囲を判定し、その値を取得して、詳細リンクを基にターゲットモジュールに値を渡します。

リンクに対するパラメータ (範囲、プロンプト、フィルタ) をプレビューするには、コンポーネントの一部をリンクまたはリンク解除するようユーザインタフェースを設定します。ビジュアルインジケータにより、リンクされるコンポーネントが特定されます。

BI ワークスペースでコンテンツリンクを設定するには、BI ワークスペースツールバーで [\[コンテンツリンク\]](#) をクリックします。

3.3.6.1 モジュールコンテンツのリンク

Web Intelligence モジュールを使用してコンテンツリンクを実行する前に、BI ラUNCHパッドで Web Intelligence 基本設定を設定して、[\[Web\]](#) オプションを表示する必要があります。

同じ BI ワークスペースタブまたはサブタブにあるダッシュボードモデル、Web Intelligence ドキュメント、Crystal レポートモジュール、および Web ページモジュール間に動的通信を設定できます。ソースモジュールは、実行時に 1 つまたは複数のターゲットモジュールにパラメータ値として情報を送信します。このパラメータ値は、Web Intelligence ドキュメント、Crystal レポート、Web ページモジュール、またはダッシュボードモデルのデータスプレッドシート範囲のプロンプトに入力されます。

ソースのダッシュボードまたは Web Intelligence モジュールとその他のターゲットモジュール間の動的通信を容易にするには、外部インタフェース接続コンポーネントを使用します。ユーザが [\[パラメータ\]](#) 領域の値を選択し、この情報がソースモジュールからターゲットモジュールに送信された後にプロンプト値として挿入されます。

i 注記

BI ワークスペースのダッシュボードモデルをソースモジュールとターゲットモジュールの両方で使用するには、ダッシュボードを使用して外部インターフェース接続コンポーネントでレポートを設定する必要があります。ダッシュボードモデルでのポータル接続の設定の詳細については、*Dashboard* および *Presentation Design* のユーザガイドを参照してください。

1. モジュールライブラリから、ソースのモジュールを BI ワークスペースレイアウトにドラッグします。
2. 1 つまたは複数のターゲットモジュール (ダッシュボードモジュール、Crystal レポート、Web Intelligence ドキュメント、または Web ページモジュール) をワークスペースレイアウトまでドラッグします。
3. [BI ワークスペースツールバー] で、[コンテンツツリンク] をクリックします。
選択可能なソースモジュールおよびターゲットモジュールとともに [コンテンツツリンク] ダイアログボックスが表示されます。テーブルには、ソース/ターゲットモジュール、および関連するソース/ターゲットパラメータが一覧表示されます。点線はリンクされたモジュールを示していますが、接続が設定されるまでにパラメータをマップする必要があります。
4. [パラメータマッピング] テーブルで、[ソースパラメータ] 列のソースパラメータを選択し、次に [ターゲットパラメータ] 列のターゲットパラメータを選択します。
パラメータが組み合わせられ、モジュールがリンクされます。接続は実線で表示されます。その他のコンテンツツリンク接続は、以下のインジケータによって表されます。
 - 詳細リンク: 丸いアイコン (パラメータありの接続)
 - インポートデータ: 青
 - 出力データ: 緑
 - リンク/接続: オレンジ
5. [閉じる] をクリックします。

3.3.6.2 上級: ポートレット間通信の Web ページモジュール I/O パラメータの公開

BI ワークスペースで提供される API を使用すると、ワークスペース作成者は、Web ページモジュールと他の IPC 対応モジュール間で送信できるイベントを定義できます。Web ページモジュールは、ソースモジュール (つまり、"out" ポートでパラメータ値を送信) またはターゲットモジュール (つまり、"in" ポートで値を受信) になります。次の API メソッドが使用されます。

```
/*
Declare the list of in and out parameters that the module exposes, and the callback
method to handle events
received by the module
@paramIn - String array of parameter names that the module can receive
@paramOut - String array of parameter names that the module can send
@callback - Function to invoke upon receipt of events from other modules. Likely to
be used when the module receives events, and @paramsIn is expected to be populated
*/
exposeModuleParameters(paramsIn, paramsOut, callback)
/*
Send parameters to modules connected through the "Content Linking" dialog box with
this module
@paramNames - Array of parameter names
@paramValues - Array of parameter values
The two arrays must be in the same order (name-value pairs)
*/
sendParameters(paramNames, paramValues)
```

この API を使用してモジュール間にコンテンツツリンクを実装するには、次の手順を実行します。

1. 他のモジュールから受け取ったパラメータおよび値を処理するコールバックメソッドを実装します。
このコールバックは、イベントがモジュールに送信されると、BI ワークスペースフレームワークにより呼び出されます。
2. モジュールのロード中に、`exposeModuleParameters` 関数を呼び出すために、関連するパラメータおよび提供されたコールバックで `parent.exposeModuleParameters()` を呼び出します。
3. コンテンツリンクを通じて接続された他のモジュールにパラメータデータを送信するには、`sendParameters` 関数を呼び出すために、関連するパラメータデータで `parent.sendParameters()` を呼び出します。



例

Web ページモジュール間のコンテンツのリンク

BI ワークスペースに付属しているサンプルソースおよびターゲット Web ページモジュール (`SampleSource_WPM.html` および `SampleTarget_WPM.html`) を使用して、基本コンテンツリンクを実装することができます。

1. BI ワークスペースに新しいワークスペースを作成します。
2. モジュールライブラリから Web ページモジュールをワークスペースにドラッグします。
3. 他の Web ページモジュールを、ワークスペースの最初のモジュールの右側にドラッグします。
4. 最初のソース Web ページモジュールのモジュールツールバーの **[編集]** をクリックします。
[コンテンツの編集] ダイアログボックスが表示されます。
5. **[Web ページ URL]** ボックスに、ソースサンプル Web ページモジュールの場所を示す URL を入力します。
たとえば、「`http://samples/SampleSource_WPM.html`」と入力します。
6. 手順 4 と 5 を繰り返して、ターゲット Web ページモジュールの URL を定義します。
7. BI ワークスペースツールバーで、**[コンテンツリンク]** をクリックします。
[コンテンツリンク] ダイアログボックスが表示されます。ダイアグラムに、ソースモジュールとターゲットモジュールが表示されます。**[利用可能な接続]** テーブルには、リンク可能な潜在的モジュールおよびポートが表示されます。
8. 図の中で、ソース Web ページモジュールの "out" ポート (`PARAMETERS_OUT`) から、ターゲット Web ページモジュールの "in" ポート (`PARAMETERS_IN`) に接続線をドラッグします。
リンクサークル内が **[0]** の場合、モジュール間でパラメータがマッピングされないことを示します。
9. **[パラメータマッピング]** テーブルの各行で、**[ソースパラメータ]** 列のパラメータに対応する **[ターゲットパラメータ]** 列のパラメータを選択します。
たとえば、**[ターゲットパラメータ]** 列での選択は、`yearParam`、`countryParam`、および `stateParam` になります。
マッピングが完了すると、図のリンクサークル内に **[3]** が表示されます。
10. **[閉じる]** をクリックします。
11. ソースモジュールで、**[単一パラメータ]** セクションおよび **[複数パラメータ]** セクションの一覧から値を選択します。
[送信] をクリックすると、ターゲットモジュールの対応するフィールドに各値が転送されます。

重要免責事項および法的情報

コードサンプル

この文書に含まれるソフトウェアコード及び / 又はコードライン / 文字列 (「コード」) はすべてサンプルとしてのみ提供されるものであり、本稼動システム環境で使用することが目的ではありません。「コード」は、特定のコードの構文及び表現規則を分かりやすく説明及び視覚化することのみを目的としています。SAP は、この文書に記載される「コード」の正確性及び完全性の保証を行いません。更に、SAP は、「コード」の使用により発生したエラー又は損害が SAP の故意又は重大な過失が原因で発生させたものでない限り、そのエラー又は損害に対して一切責任を負いません。

アクセシビリティ

この SAP 文書に含まれる情報は、公開日現在のアクセシビリティ基準に関する SAP の最新の見解を表明するものであり、ソフトウェア製品のアクセシビリティ機能の確実な提供方法に関する拘束力のあるガイドラインとして意図されるものではありません。SAP は、この文書に関する一切の責任を明確に放棄するものです。ただし、この免責事項は、SAP の意図的な違法行為または重大な過失による場合は、適用されません。さらに、この文書により SAP の直接的または間接的な契約上の義務が発生することは一切ありません。

ジェンダーニュートラルな表現

SAP 文書では、可能な限りジェンダーニュートラルな表現を使用しています。文脈により、文書の読者は「あなた」と直接的な呼ばれ方をされたり、ジェンダーニュートラルな名詞 (例: 「販売員」又は「勤務日数」) で表現されます。ただし、男女両方を指すとき、三人称単数形の使用が避けられない又はジェンダーニュートラルな名詞が存在しない場合、SAP はその名詞又は代名詞の男性形を使用する権利を有します。これは、文書を分かりやすくするためです。

インターネットハイパーリンク

SAP 文書にはインターネットへのハイパーリンクが含まれる場合があります。これらのハイパーリンクは、関連情報を見いだすヒントを提供することが目的です。SAP は、この関連情報の可用性や正確性又はこの情報が特定の目的に役立つことの保証は行いません。SAP は、関連情報の使用により発生した損害が、SAP の重大な過失又は意図的な違法行為が原因で発生したものでない限り、その損害に対して一切責任を負いません。すべてのリンクは、透明性を目的に分類されています (<http://help.sap.com/disclaimer> を参照)。

www.sap.com/contactsap

© 2015 SAP SE or an SAP affiliate company. All rights reserved.
本書のいかなる部分も、SAP SE 又は SAP の関連会社の明示的な許可なくして、いかなる形式でも、いかなる目的にも複製又は伝送することはできません。本書に記載された情報は、予告なしに変更されることがあります。SAP SE 及びその頒布業者によって販売される一部のソフトウェア製品には、他のソフトウェアベンダーの専有ソフトウェアコンポーネントが含まれています。製品仕様は、国ごとに変わる場合があります。
これらの文書は、いかなる種類の表明又は保証もなしで、情報提供のみを目的として、SAP SE 又はその関連会社によって提供され、SAP 又はその関連会社は、これら文書に関する誤記脱落等の過失に対する責任を負うものではありません。SAP 又はその関連会社の製品及びサービスに対する唯一の保証は、当該製品及びサービスに伴う明示的保証がある場合に、これに規定されたものに限定されます。本書のいかなる記述も、追加の保証となるものではありません。
本書に記載される SAP 及びその他の SAP の製品やサービス、並びにそれらの個々のロゴは、ドイツ及びその他の国における SAP SE (又は SAP の関連会社) の商標若しくは登録商標です。本書に記載されたその他すべての製品およびサービス名は、それぞれの企業の商標です。
商標に関する情報および表示の詳細については、<http://www.sap.com/corporate-en/legal/copyright/index.epx> をご覧ください。